

令和6年度 学習分析事業 課題改善シート 三原市立沼田東小学校

【別紙1】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		52.8	52.7	55.1	56.8	53.8
	本年度結果 偏差値平均	44.5	52.5	52.6	57.6	49.8	51.8
算数	前年度結果 偏差値平均		57.5	56.2	58.2	53.2	55.9
	本年度結果 偏差値平均	52.7	58.2	54.9	57.5	50.6	54.9
理科	前年度結果 偏差値平均				54	56.4	54.6
	本年度結果 偏差値平均			49.3	53.5	52.2	51.5
全体	前年度結果 偏差値平均		55.1	54.5	55.7	55.5	54.8
	本年度結果 偏差値平均	48.6	55.4	52.3	56.2	50.4	52.7

③全国学力・学習状況調査 正答率平均(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	66 (95)	63 (98)
本年度結果 (対県比)	68 (98)	61 (95)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語では、2年生は、重要な語や人物の行動をとらえること(46.8%)、3年生は、文や文章を正しく書くこと(35.4%)、4年生は、主題や構成を読み取ること(46.9%)、5年生は、考えや感想を持って伝え合うこと(50.8%)、6年生は、情報を選び構成を考えて話すこと(46.3%)に課題があった。 ●算数では、2年生は、長さ・かさ・広さ(76.0%)、3年生は、長さ・かさ(74.0%)、4年生は、かけ算(66.9%)、5年生は、表と折れ線グラフ(53.4%)、6年生は、整数の性質(47.0%)に課題があった。 ●理科では、4年生は、乾電池と豆電球(44.1%)、5年生は、天気と気温・雨水と地面(59.5%)、6年生は、物の種類や水の温度と溶ける量(57.6%)に課題があった。	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科の課題 ・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書く。(22.4% 県比-6.6) ・原因と結果など情報との関係について理解している。(57.1% 県比-7.8) ・漢字を文の中で正しく使う。(38.8% 県比-14.5) ●算数科の課題 ・正三角形の意味や性質の理解(20.4% 県比-4.7) ・底辺と面積の関係をもとに、面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。(26.5% 県比-6) ・「以上」の意味を理解し、表から必要な数を読み取る(63.3% 県比-12.5)
---	--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
【主体的で深い学びにつながる授業改善】 ①全教員が、算数科を中心とした「問い」の設定を意識した授業を実施する。 ②全教員が、児童同士の「対話」を仕組み授業を実施する。 ③ICTを効果的に活用する。 ④全国学力・学習状況調査及び学力調査の結果を分析、児童の課題解決に取り組む。 【学力調査40%未満の児童を核に据えた学力向上の取組】 ⑤全学級で、学力向上の取組を計画的に実施する。	①各「学習場」において、児童及び1年生時限の授業の中で、児童が主体的に学ぶことを考えとめ、一斉指導で利用し、必要に応じて個別指導やグループ学習を実施する。 ②1年生時限の授業において、思考・判断・表現力を育成するため、「対話」を取り入れる。 ③ICTが効果的である判断した時には活用する。 ④全国学力・学習状況調査の結果を分析、児童の課題解決に取り組む。 ⑤全学級で、学力向上の取組を計画的に実施する。 ⑥NRT、全国学力・学習状況調査の結果から、2学年より国語、算数における課題について、各学年において自主・時間を決め、授業における取組内容を協議、一斉表にまとめた取組を実施(「2学年からの取組」・NRT、全国学力の結果を受けて)。 ⑦全学級で、学力向上の取組を計画的に実施する。 ⑧NRT、全国学力・学習状況調査の結果から、「算数・国語」を重点に据え、全学級の基礎学力の定着に取り組む。 ⑨NRT、全国学力・学習状況調査の結果から、「算数・国語」を重点に据え、全学級の基礎学力の定着に取り組む。 ⑩1月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力・学習状況調査の過去問、アンソロジーを計画的に実施する。 ⑪2月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力・学習状況調査の過去問、アンソロジーを計画的に実施する。 ⑫3月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力・学習状況調査の過去問、アンソロジーを計画的に実施する。 ⑬4月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力・学習状況調査の過去問、アンソロジーを計画的に実施する。 ⑭5月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力・学習状況調査の過去問、アンソロジーを計画的に実施する。 ⑮6月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力・学習状況調査の過去問、アンソロジーを計画的に実施する。 ⑯7月からは、学年に応じてNRT類似問題や全国学力・学習状況調査の過去問、アンソロジーを計画的に実施する。	①年間を通して、特に授業研究実施時(年1回)と相互授業観察時(月1回)。 ②年間を通して、特に授業研究実施時(年1回)と相互授業観察時(月1回)。 ③年間を通して、特に授業研究時(年1回)。 ④6月～8月 ⑤6月 学力調査の結果分析。 ⑥6月 全国学力・学習状況調査の結果分析。 ⑦6月28日 学力調査、全国学力・学習状況調査の結果より今後の授業改善に向けて取組の計画立案。 ⑧年間を通して、月ごとと各学年で計画を立て実施。 ⑨年間を通して、月ごとと、授業改善を中心に、授業問題や応用問題に取り組ませる計画を立て実施。2月末にはNRT類似問題を実施。	①年3回の児童アンケート「課題解決のために、授業の最後まで考えている」授業中、自分の考えを言っている180%以上。 ②1学期結果、91.4%、次の指標93%以上、2学期結果、93.0%。 ③年3回の児童アンケート「授業中、ペアやグループで自分の考えを言っている」授業中自分の考えを比べて考えている180%以上、1学期結果、90.7%、次の指標93%以上、2学期結果、89.7%。 ④3年3回の児童アンケート「授業中、ペアやグループで自分の考えを言っている」授業中自分の考えを比べて考えている180%以上、1学期結果、95.4%、次の指標98%、2学期結果、97.4%。 ⑤年間を通して、必要に応じてNRT類似問題を効果的に活用している80%以上、1学期結果、100%、2学期結果、100%。 ⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
【学級・学習集団づくり】 ①全学級において、規範意識を高める取組を行う。 ②児童会、学級活動で児童が主体的に企画実行できる活動を行う。 ③児童の実態を全教職員で把握するとともに、SSRや相談室など、児童一人一人の学びの場としての居場所を確保する。	①Q-Uの分析による実態把握と全体交流、改善計画の立案と共有。 ②1月1日の学年末集会で、「児童会が主役の居場所を築く、思いやり、無言無言、右側歩行、時間を守る」の児童の進捗状況を確認、効果的な交流を行う。 ③児童会を中心に「沼田東小の柱」に関する月目標を立てさせ、主体的に取り組ませる。 ④児童会が企画した「児童会活動」を月1回実施する。 ⑤学級で企画したお楽しみ会等を学期1回以上実施する。 ⑥暮会で気になる児童について交流するとともに、不登校や支援室支援委員会において児童の居場所に関する相談を受ける。 ⑦学級でQ-U分析を行い、全体交流を実施。	①6月 12月 2月 ①1月1回 ②1月1回 ③2学期に1回 ④週2回、月1回	・Q-U2回目の一次支援の数値向上(全学級で1回目以上) 11学級中9学級が1回目の数値より向上 ・Q-U学級満足群の児童の数値向上(全学級で80%以上) 11学級中5学級が学級満足群80%以上

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】(NRTをうけて) ●国語科表記「は」や「へ」(2年生)前学年までの漢字の書き取り(3年～6年)など、基本的な技能に課題があった。 ●物語文や説明文の読解では、文章に合う図の選択、詳細の読み取り(2年・5年)心情の読み取り(3年)、接続語の選択(4年・6年)に課題があった。 ●算数科値数を数える(2年)図形の理解(3年)時刻の計算(4年)三角形の外角を求める(6年)展開図(5年・6年)など、主に図形領域に課題があった。 (全国学力・学習状況調査をうけて) 【国語科】目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する(47.7% 県比-14.8)、話し言葉と書き言葉の違いに気づく(56.8% 県比-19.1)、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する(45.5% 県比-7.4) 【算数科】問題場面の数量の関係をとらえ、式に表す(52.3% 県比-9.8)、球の直径の長さや立方体の一片の長さの関係をとらえ、立方体の体積の求め方を式に表す(29.5% 県比-7.7)、速さの意味理解(34.1% 県比-20)	【学級集団について】(1回目のQ-Uをうけて) ●Q-Uにおける三次支援を必要とする児童がどの学年にも数名ずついる結果から、学習環境や支援をさらに必要としている児童がいることが明らかになった。 ●学級満足群の児童の割合が80%以上の学級が3学級、70%以上の学級が2学級、70%未満の学級が6学級である結果から、学級生活に満足していないと感じている児童が多いという課題が明らかになった。学級満足度尺度の分布では非承認群に位置付く児童があり、分布が縦軸方向に延びた学級が多いことから、周りから自分が認められていないと感じている児童が多いことがわかる。そのため、特別活動等で認め合う場の設定・実施を通じて、自己有用感・達成感を育む必要がある。 (2回目のQ-Uをうけて) ●Q-Uにおける三次支援を必要とする児童は全体では減少し、一次支援の児童がほとんどの学級で向上した。 ●学級満足群の児童の割合が80%以上の学級が5学級、70%以上が4学級、70%未満が2学級で全体的に向上した。 ●学習意欲が9学級向上した。認め合う場を設定して、学びの環境に変化が見られたと考える。 ●承認感が高い児童が増えてきたが、友達関係尺度が低い学級や侵害行為認知群に移動した児童がいる学級もあった。感情を表したり、自分の意見・考えを言えたりする児童が出てきた反面、友達関係で不安に感じたり、周からいじめられたいと感じたり、孤立感を感じたりしている児童が多いと考えられる。児童の友達関係・グループの固定化にならないように留意しながら、特別活動や学習で自己有用感・達成感を育むとともに、「学びの実感」を児童がもてるような支援を継続する。また、「得意なこと」「得意なこと」を児童同士が相互理解して、支え合える理解的支持
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・基本的な言語事項の確実な定着 ・まとまった文章を書くこと ・四則計算の確実な定着 ・図形の性質等の確実な理解	①全学年全教科等でのR80の実施(必須) ②茶レンジタイムや茶ンスタムでの基礎的学力の定着 ③ICT機器や具体的操作に基づいた図形領域の理解	○各学期単元末テスト平均85点以上(各学期末実施)
【学級・学習集団づくりについて】 ・支持的風土の醸成 ・学習規律・学習環境の整備 ・安心できる居場所づくり	①児童会、学級活動等で認め合う場を設定し、自己有用感・達成感を育む ②ICT機器や具体的操作、個別の支援の交流 ③暮会で気になる児童について交流し、支援の共通理解	○Q-U2回目の一次支援の数値向上 11学級中7学級が1回目の数値より向上 6学年中4学年が1回目の数値より向上 ○Q-U2回目の学級満足群(80%以上)児童の数値向上 11学級中5学級が学級満足群80%以上